

2013年1月9日発表ニュースリリース

更なる情報

Bjorn Beeler

IPEN

510-710-0655

Email: bjornbeeler@ipen.org

David Evers, Ph.D.

Biodiversity Research Institute

207-839-7600 x221

david.evers@briloon.org

世界の人と魚の水銀レベル 健康勧告レベルを超えている 国際水銀条約最終交渉が1月13日から始まる

新たな科学報告書が、世界中の人と海洋生態系が水銀で汚染されており、人と魚の水銀レベルはいつものように健康勧告レベルを超えていることを明らかにしている。国連環境計画による十年以上の間をおいた久しぶりの国際的な条約である水銀条約を確立するための最終交渉を行なうために、政府代表者らが来週、ジュネーブに参集するにあたり、IPENと生物多様性研究所（BRI）は、水銀排出の全体削減が緊急に必要であることを強調している。

世界の水銀ホットスポット（*Global Mercury Hotspots*）と題する報告書（*）は、“魚と人の毛髪サンプル中の水銀濃度に関する新たなデータを一緒にし、水銀の高いレベルが生態系と人の健康の両方に深刻な脅威を及ぼす世界の生態学的ホットスポット一式を初めて特定したものである”とBRIのエグゼクティブ・ディレクターであり、主席科学者であるデービッドC.エバーは述べた。この報告書は公益団体の世界的ネットワークであるIPENとBRIの科学研究チームとの共同研究であった。

報告書概要（日本語）

http://www.ne.jp/asahi/kagaku/pico/mercury/IPEN/INC5/Brief_IPEN_BRI_Report.pdf

報告書原文：Global Mercury Hotspots

<http://ipen.org/hgmonitoring/pdfs/ipen-bri-report-global-hg-hotspots-2013-01-09.pdf>

報告書の主要な発見：

- 水銀汚染は世界中の海水系及び淡水系のいたるところで見られる。
- 生物学的な水銀ホットスポットは世界的に共通であり、塩素アルカリ製造施設、汚染サイト、石炭火力発電所、人力小規模金採鉱、複合化学産業サイト、およびその他の汚染源など様々な人間活動に関連している。
- 世界中で得られた魚のサンプルはいつも水銀濃度が米環境保護庁（EPA 人健康助言ガイドライン）を超えていることを示しており、その調査で9か国からの43～100%の魚のサンプルがひとつの魚の肉170グラム（6オンス）という魚の安全摂取量を超えた。日本とウルグアイの近海で取れた魚の水銀濃度は非常に高いので、食べることは推奨されない。

- 8 か国からの人の毛髪サンプルの 82%以上が米 EPA 参照用量レベルの 1,0 ppm を超えた。タイでは産業地域の近くに住んでいる 20 人の内 20 人が安全ではないレベルであり、金採鉱現場のインドネシア人 20 人の内 19 人が EPA の勧告レベルを超え、日本の東京地域の 20 人の内 18 人が同様なレベルであった。

IPEN のような公益団体は、現在提案されている条約の措置は水銀からの引き続き健康影響を防ぐために、又は魚の世界的な水銀レベルを低減するためには十分ではないと懸念している。水銀条約の交渉のまとめは、スイスのジュネーブで 2013 年 1 月 13 日から 18 日まで行なわれる。

“我々は、世界中の魚と人の毛髪はいつも健康助言レベルを超えている”と IPEN の上席科学技術顧問のジョー・ディガンギは述べた。“この結果は、大気だけではなく、陸と水も同様に真の水銀排出削減を義務付ける水銀条約の必要性を実証している。水銀は、強く野心的な世界の対応が必要な大きく深刻な世界の脅威である”。

日本の元首相により提案されたように条約を水俣条約と命名し、条約署名式典を、水銀汚染が数十年間、地域の人と動物をひどく損なってきた場所、日本の水俣で行なうということへの反対が増大している。現在提案されているように、条約は汚染サイトを特定する又は浄化するどのような義務をも含んでおらず、健康被害又は環境的浄化のための汚染者負担を求めておらず、あるいは世界のどこかで同様な大惨事が起こらないようにすることを求めている。

この命名への様々な反対が、いくつかの国の代表者ら、悲劇の被害者等を代表する団体、及び水俣市議会から提起された。

石炭燃焼、鉱石の採鉱及び精鉱、そしてセメントの製造のような人間の活動は水銀を環境中に放出する。今日、大規模で意図的な水銀使用には、小規模金採鉱と塩ビモノマー製造がある。石炭燃焼もまた、大気水への銀排出と、それに引き続く世界の堆積に著しく寄与している。製造され使用される水銀の多くは、最終的には大気に蒸発し、世界中を移動して最終的には降下して陸地又は海に戻ってくる。

水銀が海又は水路に降下するときに、微生物が水銀を特に有毒な形態であるメチル水銀に変換し、それが食物連鎖の一部に入り込む。メチル水銀は容易に体に吸収され、人々は主に魚を食べて曝露する。多くの国家又は国際保健機関は、魚に含まれる水銀は人の健康、生計、及び環境への脅威として認めている。

水銀週国の危険性は、数世紀にわたり知られている。高いレベルの水銀への曝露は、脳と腎臓を永久的に損傷する。有害影響はまた、母親から彼女の発達中の胎児に伝えられ、脳の障害、精神的遅延、失明、脳卒中、及び言語障害をもたらす可能性がある。

IPEN の使命は、全てのために毒のない将来とすることである。IPEN ネットワークは 116 か国にある 700 以上の公益団体から構成される。IPEN のリーダーは、一般大衆の活動家と、国家及び国際的に認められた科学、健康、環境及び政策の分野に於ける専門家である。
www.ipen.org

生物多様性研究所の使命は、共同研究を通じて新たに出現する野生生物と生態系への脅威を評価し、環境的意識の向上を図り、政策決定者に情報を提供するために、科学的発見を活用することである。